

2016年度学校教育計画表

部署	重点目標(計画)	具体的方策(計画)
SS大学進学コース	生徒一人ひとりの学力の伸長、及び希望進路の実現	生徒一人ひとりの学力を把握し、教職員が共有する
		個々の学習習慣(家庭学習)を定着させる(1年)
		実態に即しながらも高い意識を持たせ、きめ細かい指導により、それぞれ第1志望校の現役合格をめざす(3年)
		「総合的な学習の時間」、「大学見学」等を通じ、進学意識を高め、目標を明確にさせる
総合進学コース	学力の充実と社会適応力の育成	「寺子屋学習」および「スタディサプリ」等の活用により、個々の学力の伸長を目指す
		キャリア教育によって、個々の生徒に適応した望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身に付けさせる。また、自らが掲げたテーマに対し、調査研究した内容をプレゼンテーションし、ディスカッションすることで、実践的な自己表現能力とコミュニケーション能力を磨く。
		系統別のカリキュラムでは、授業による知識の定着と、現場での実習による実践力をバランス良く習得し、生徒の進路実現の推進力とする。
		一般入試に対応できる学力習得を目指しながら、2年次の小論文素材研究、3年次の国語表現、小論文模試などを活用し、AO・推薦入試に必要なスキルを早い段階から身につける。部活動・生徒会活動など課外活動への積極的な取り組みを促し、現代の社会に適応できる「人間力」の育成に努める。
美術工芸コース	希望進路の実現	キャリア教育を踏まえ、目標実現のため、適切な支援を行う 専門実習の更なる充実と共に、美大入試科目の充実を図る アートセンター(美大予備校)及び進路情報会社との連携
	生徒の心身の充実	教員間の密接な連絡による適切な生徒相談を行う 美術・工芸を通じた生徒の向上意欲の増進、成長を図る。
	生徒作品の充実	過去の美工展を総括し、更なる作品展の充実を図る 様々な機会を設け、生徒達により多くの優れた美術・工芸作品に触れさせるよう努める
	生徒募集活動の活性化	美術系キャリアのデータを活用した、募集活動の検討、実施 美術大学と連携して中学生に対するキャリア教育の検討
スポーツサイエンスコース	競技力・競技実績の向上	競技ごとに目標設定をし、目標達成に向けた指導計画に基づいた段階的な指導を行う。個々の競技力の向上とチーム力を向上させ、目標達成に導く。
	学力向上・人間形成	高校生としての基礎学力の定着と、上位層のさらなる学力向上を目指す。自立した生徒を育成し、コミュニケーション能力の向上と集団の中でリーダーになれる人材を育成する。
	希望進路の実現	競技力・競技実績の向上と、学力向上・人間力を高めることを両立していく。生徒に適した進路選択を考えさせ、実現に向けた支援を担任と連携を取りながら行っていく。進路開拓を積極的に行う。
食物科	各担任への連絡体制を引き続き整えていく	食物科連絡会を行い、各月の予定と各行事の日程や役割の把握を徹底する
	総合調理実習への対応	授業内容を研究し、他校の状況を調査してきたものをもとに、総合調理実習の授業を構築していく
	課題研究の各学年での指導内容の確立	最終的には3年で行われる卒業記念作品展に繋がる課題研究の各学年での目標を明確にし、指導の体制を整える
	カリキュラムの検討	専門教科1単位35時間の授業を確保しつつ、進学希望者に対しては一般教科の更なる学力の定着を図れるようなカリキュラムを検討する
1学年	主体的な学習への取り組みと思いやりをもった行動への実現	遅刻欠席の連絡徹底、学習環境の整備など、基本的な生活習慣を確立させる。 共同的・協力的な活動を踏まえ、他者への思いやりの意識を持たせる。 社会人としての心構え等を1年次から身につけ、将来の進路について意識させる。 日々の学習で時間の使い方(1日の予定)を設定させたり、清掃活動を全員で行うことを身につけさせ、主体的に努力できる生徒を育てる。 HRの使い方を固定化させ、読書に専念できる時間を設け、読書を通して、見識のある心の豊かな生徒を育てる。 授業や講演会を通して、正しい性に関する知識を身につけさせ、健全な生徒の育成に努める。
2学年	社会から必要とされ、自分で考えて行動し、人のために行動できる人材への発展	高校生としての基本的な生活習慣を確立させる 基礎学力の定着に加え、様々な分野に関する思考力を高める 自主・自立の精神を持った生徒を育成する 自己はもちろんのこと、他者への思いやりの意識を持たせる 将来の進路について意識を向上させ、実現のための行動をさせる 沖縄研修旅行を通して、平和に関して意識させ、考えさせる 新選挙法施行に伴い、18歳選挙権に対応できるように主権者教育を行う
3学年	生徒一人一人の希望進路の実現と無事全員が卒業を迎えられるように適切な指導を行う。	担任、副担任そして教科担任間の連携を密にする。 自分に適した進路を早い時点で決定し、進学・就職実現のサポートをする。 進学後・就職後、社会に出た後も通用する学力、人間力をきちんと身につけさせる。 進路決定後、部活動引退後も基本的な生活習慣・学校内外での乱れないようにする。
生徒会指導部	生徒会活動の充実	生徒だけでなく教職員の意識も向上するように働きかけをする 日常生活における活動や取り組みを数多くするように提案等していく 東日本大震災の復興支援やインターアクトクラブなど、学校外に対する活動を充実させる
	文化祭の成功	生徒の自主性や主体性が発揮されるような文化祭になるよう助言をし、生徒たちが達成感を得られるような文化祭にする
	課外活動の充実	充実した課外活動になるよう、様々な面におけるサポート体制を構築し、さらに発展させる

2016年度学校教育計画表

部署	重点目標(計画)	具体的方策(計画)
生活指導部	学校目標に則った生徒の育成	いじめや差別がない学校づくり、ならびに早期発見と早期解決(生活相談と連携) 悩みを抱えている生徒への配慮、ならびに相談体制の充実(生活相談・特別支援と連携)
	先生方の実効性ある指導が奏効するための下支えとなる基本的な生活習慣の定着	学力向上・部活指導・進路指導が効率的に指導されるための生活指導 教職員側が足並みを揃え、生徒にとって納得が得られる指導方法の構築
	現代的で喫緊の課題に対する予防指導の充実	男女交際に関する教育ならびに性教育の充実 情報通信端末類ならびにネット(SNS・ブログなど)の使い方に関する指導の充実
	問題行動に対する適切な指導と迅速な対応	学年会との連携による有機的な指導の検討 懸念や指摘(被害や苦情)に対する迅速な対応ならびに周知徹底
	盗難防止、ならびに交通安全と交通マナーの徹底	校内での盗難の抑止 自転車による事故の防止、ならびに公共交通機関を利用する際のマナーアップ(交通安全)
	生活指導方針の周知・徹底	在校生と保護者への積極的な情報提供 受験予定者と保護者への積極的な情報提供
	進路指導部	適正な自己認識と進路選択
希望進路の実現		就職未決定者0の実現 第一志望校への合格
社会人として必要な資質の育成		基礎学力・一般教養の定着 基本的な生活習慣を身につけさせる 面接指導を通じてのマナーの定着
教務部	他部署との連携を図る	文書・選択表等を期日を決め確実に集める 授業変更・自習監督の円滑化
	来年度カリキュラムと新課程カリキュラムの完成	学科コース主任会との連携 各教科との連携
	新テストへの対応	学力向上委員会との連携
	成績処理の円滑な運用	担任が把握しやすい処理の流れを構築する。
	憲法人権平和教育	憲法施行70年(18歳選挙権)を踏まえ、法の支配と憲法改正について弁護士を交えたディスカッション形式の勉強会を開催
	行事企画の円滑な運営	2ヶ月前連絡の徹底 ミスをなくす 反省の集積
	適正な定員確保のための入試	基準の見直し 入試内容の検討
	間違いのない教科書選択	各教科、各学年と連携し、確認もしっかりと行う。 円滑な教科書販売ができるようにする。
図書視聴覚部	図書館利用の活発化。	カード化を進める。利用しやすい図書館内の環境整備。広報活動の充実。委員会活動の活発化。
	読書活動の推進	名著、名作、新書などの図書を積極的に購入する。生徒の希望図書を購入する。読書週間を設ける。
	視聴覚教材の授業への活用	視聴覚教材を活用して生徒の理解をより深められるように、視聴覚教材の充実と利用を促進する。
環境衛生部	生徒・職員の心身の健康問題の早期発見・早期対応	健診で指摘を受けた生徒へ年4回の受診勧告を行い、各科目標受診率を達成する。 精神的に苦しい生徒は、担任と相談しSCや医療機関を勧め、居場所を多く確保する。方向性のないまま保健室・相談室利用を長期化させない。
	日々の保健指導・健康相談活動の充実	セルフメディケーションを意識した保健指導を行い、生徒の健康意識と自己責任能力を高める。 生活習慣アンケートの実施、まとめを行い、展示発表を行う。
	防災対策・防災教育の充実	実践に準じた避難訓練の実施 様々な災害に対応できる環境整備
	学習環境の整備	教員生徒による全校清掃の徹底 校内巡視(清掃委員会)による、校内美化の注意喚起
渉外部	教職員、会員相互の連携を図り、より良い活動を展開する。	学級・学年PTA活動の充実 地区PTA活動の充実 委員会活動の推進 研修機会の充実 総会・役員会・PTA研修旅行の参加者を増やす
	中信地区私学助成推進協議会の活動を展開	陳情活動の充実。ならびに助成水準の現状維持を図る
	同窓会組織の充実活性化	PTA ピーターパンなど他団体との協力を図る。 イベントを組むなど総会を有意義なものとして参加者を増やす工夫をする。 先生方の協力を仰ぐ。 役員会の開催。

2016年度学校教育計画表

部署	重点目標(計画)	具体的方策(計画)
安全管理委員会・個人情報管理委員会	学校内の安全を維持し、災害やトラブルを未然に防止するための諸活動を行う	あらゆる災害やトラブルを想定したマニュアルの点検と浸透のための諸活動を行う
		教職員側の教育活動における人道的観点の維持と浸透を保つ諸活動を行う
	校内の教育活動において各教職員が「個人情報の保護に関する法律」ならびに「長野県個人情報保護条例」などの関係法令を遵守する環境を整備する	「個人情報の取扱ならびに管理方針(プライバシーポリシー)」の点検と浸透のための諸活動を行う
		上記の「管理方針」とは別に設けている「日常的教育活動におけるガイドライン」に沿って教育活動が行われているかを確認する
学校衛生委員会	健康課題の把握・対策	情報交換会を開催し、専門の立場からの助言をもとに対策をたてる。
広報企画委員会	6月中学校訪問時には充実したスクールガイドを完成させる。	コストを下げ、すっきりとしたものにする
		ホームページの煩雑な更新に努める
部活動後援会	部活動への効率的な助成	各部の実績や部員数を勘案し、補助金を適正に配分する。
	部活動活性化への予算配分	部活動活性化へ予算配分を適正に検討する。
将来構想・少子化対策委員会	将来構想	5年先を見越した学校づくりを検討する
	少子化対策	生徒急減期に安定して定員を確保できる具体的な策を検討する
学力向上・新テスト担当委員会	個々の教員の持つ「学力」という言葉の意味を統一させたいと、その向上のための諸活動を行う	その諸活動の成果として進学実績が伸びるよう、進路指導部と教務部と連携し、各教科の対策をまとめ、実行する
	やがて導入される「新テスト」について研究し、その対策としての諸活動を行う	情報の収集と分析に努め、職員の研修会を行い共有する。その上で、進路指導部と教務部と連携し、各教科との対策案をまとめ、実行する。
国語科	学習を総合的に進め、思考力をのばし言語感覚をみがき心情を豊かにし言語文化に対する関心を深める。	漢字検定全校受験
		小論模試などを活用し、入試に必要なスキルを身につける
		テキストの音読、読解などを通じ、読む力、書く力、話す力を総合的に学習
地歴公民科	教科指導の充実	授業内の指導を最重要とし、生徒に興味・関心を持たせるような指導の向上を図っていく
		各科目の教育目標を達成できるように、すべての生徒へのきめ細やかな教科指導を意識する
	カリキュラムの検討	一般・推薦入試等に対応できるように、個々に応じた指導を行う
		各科目・コースのニーズに応じたカリキュラムを検討していく
主権者としての自覚向上	授業等を通して、主権者としての意識を高める	
数学科	数学検定の実施回数を増やし、生徒の数学への興味関心を高める。	補習や教材を充実させることにより事前指導を徹底して行い合格者を増やす。
	各科目・コースの特徴を活かした授業内容を実践し、生徒それぞれの学力向上を目指す。	授業以外でも寺子屋の実施など生徒個々の到達度に合わせた指導を行い、模試など学外の試験を積極的に利用する。
理科	基礎学力の定着と科学的応用力の向上。	実験や教材等を効果的に活用し、印象に残るような授業展開から、自然科学に対する理解度を深める。
		問題演習、小テストを通しての基礎学力の定着、科学的な応用力を付けることにより、学力の向上を図る。
保健体育科	体力向上・コミュニケーション能力育成のために・・・	スポーツテスト実施による体力把握
		バレー・バスケットボールによる集団スポーツでの体力コミュニケーション能力の育成
	心と身体の育成のために・・・	柔道では「心・技・体」の重要性・認識の育成。
		「心と身体のバランス」の重要性についての育成
外国語科	基礎学力の充実	生徒の学力レベルに合った習熟度別講座の展開小テストなどを取り入れた基礎内容の定着
		長期休暇の課題提示とアフターフォロー
	進路実現のサポート	ALTとの連携により、生徒の表現する力を補強
		センター・二次試験・私大入試に向けた問題演習と個人指導
芸術科	情操教育の充実と集中力の育成	1人1人の個性を尊重し、自立した表現を目指す
家庭科(専門教科)	実習を通してより高度な技能の習得を図る	3年まとめの実習・発表の実施と総合調理実習の構築
	各専門教科を関連付けて学ぶ	公衆衛生と衛生法規の統合、調理の技術だけでなくマナーやサービスについても学ぶ
	課題研究の充実	各学年での目標を明確にする。また、食物科の生徒として、食をめぐる社会状況への興味関心を深めさせる
家庭科(一般教科)	生活者としての知識や技術の習得	衣・食・住に関する実習の充実を目指す
	青年期の課題と自立の意義の確認	青年期における自立を理解させ、生活スキルの習得を目指す
	共生社会について学ぶ	消費者教育の学習を通して、現代社会の現状と課題を考えさせる
	保育・福祉の理解と課題	乳幼児の発達と生活について知識を習得し、実践的な態度を育成する
情報科	情報の特徴と情報化が社会に及ぼす影響を理解させる	情報化の進展が社会に及ぼす影響や個人の責任などの面から情報社会の特性や在り方を考えさせ、情報通信ネットワーク上のルールやマナー、情報の安全性などに関する基礎的な知識や技能を習得させる。(情報モラル)
	情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して情報を収集、処理、表現する	情報とメディアの特徴、情報のデジタル化の仕組み、情報手段の基本的な仕組みなどについて理解させる。(文章処理、表計算、プログラミング)
	コミュニケーションを行う能力を養う	コミュニケーション手段の発達をその変遷と関連付けながら理解させるとともに、情報通信ネットワークの特性を踏まえ、情報の受発信時に配慮すべき事項などについて理解させる。(プレゼンテーション)
美術工芸科	美術工芸を通して生徒1人1人の成長を目指す	それぞれの分野において徹底した基礎力・知識を身に付ける
		集中力・持続力・体力の向上を図る
		探究心・向上心をもって制作する姿勢を身に付ける
		幅広い視野を持ち自己表現していく姿勢を身に付ける